2024年度 中京大学チャレンジ奨励金　最終報告書

2025年　2月　14日

学部・学年　現代社会学部　3年

氏名　藤川 愛花梨

１．プロジェクト名

大学と地域の架け橋プロジェクト - 大学生と地域住民の居場所づくり -

２．活動期間

2024 年 6 月 19 日　～　2025 年 1 月 28 日

３．主な活動場所

貝津町公民館　保見交流館

４．参加者　7　名（「７.参加者名簿」に参加者氏名等を入力してください）

５．予算・使用経費等（足りない場合は各自で列を足してください）

費目	品名・内容	予算金額	執行金額
消耗品費	菓子、飲料、文房具、教科書、材料費	30,280 円	24,144 円
印刷・製本費	宣伝用チラシ	10,500 円	8,650 円
通信運搬費	レンタル Wi-Fi	33,200 円	19,760 円
賃借料	公民館利用料	3,600 円	2,000 円
	合計	77,580 円	54,554 円

６．プロジェクトの活動報告

◆プロジェクトにおける活動内容と目標

＜活動内容＞
・大学生と地域の方が繋がる場所【こりんカフェ】の運営。
・こりんカフェの利用目的は、宿題やお喋り、ボードゲームなど自由。フリースペースに近い形で運営をおこない、地域交流の場として機能させる。
・学内イベントの実施。
・地域イベントへの参加。
・地域の他団体との合同イベント開催。

＜目標＞
・中京大生と地域の方が定期的に集うことができて、地域交流の場としてこりんカフェが機能することを目標として掲げる。中京大学に所属していて、友達がいない、居場所が無いと感じている人にとっての居場所となるようにする。また、学部や学年、大学院等を超えた交流が生まれる場所にしたいと考えている。
・今年度のゴールは、去年こりんカフェの運営をしてくださった先輩がつくりあげた大学生と地域住民の交流コミュ二ティを維持すること。そして、来年度以降も活動を継続して行うために学生と地域の繋がりに重点を置いた基盤づくりを継続することをゴールとする。
・地域で活躍したいと考えている学生や地域の方が挑戦できる環境を提供する。大学生の人手が欲しい、地域で新しい活動を始めたいなどの需要をこりんカフェの場でヒアリングし、適切な人材マッチングを行う。
・活動を通して、このプロジェクトに賛同してくれる学生を増やし、来年度以降もプロジェクトに参加をしてくれる学生の確保に努める。

◆中間報告時に抱えていた課題への対応結果

＜中間報告時に抱えていた課題＞
・学生参加が少ない。
・子どもを預けて帰ってしまう親御さんが多い。

＜対応結果＞
・学生参加が少ない。
ALBO メールや学内掲示、SNS の告知は目に留まったとしても、参加にまではいたらない学生が多かった。授業後期からは教授に声をかけてこりんカフェの活動を紹介する機会をいただいた。こりんカフェの活動に賛同してくださる教授の授業の中で、こりんカフェ運営者が足を運び、活動の宣伝をおこなった。直接顔を見てもらい、活動の様子の写真も紹介することで、どのような人が活動しているのかが分かり、安心感が生まれてほしいという狙い。

授業宣伝では、活動のメリットや地域とつながることの重要性も話した。計 4 つの授業で宣伝活動を実施。その結果、授業宣伝を聞いてこりんカフェに足を運んでくれた学生が６名いた。中には元々活動が気になっていたが、授業宣伝をきっかけに足を運んでみたという学生もいた。Instagram のフォロワーも授業宣伝期間中に 20 名ほど増加し、SNS の閲覧数を増やすことができた。

・子どもを預けて帰ってしまう親御さんが多い。

学生と地域の方が繋がれる場所をつくることが活動の目的であるが、子どもたちの遊びの場としての利用が多い。親世代の方からは、地域で集まる場所(お寺カフェ)がすでにあり、こりんカフェとの違いがわからないと言う意見もいただいた。「大学生と地域住民」のつながりを構築することで新たに得られるもの(地域に顔見知りがいる安心感、被災時にも助け合えるような関係性)を実感できるようにする必要がある。

子どもを公民館に連れてきてくださった親御さんには、お急ぎでなかったらお飲み物だけでも 1 杯いかがですか？とお声掛けをして、公民館の中に誘うようにした。また、貝津町公民館では子ども向けの絵画教室や習字教室などがおこなわれている。送迎中の親子に貝津町公民館の出入り口で積極的に挨拶、こりんカフェの簡単な紹介をおこなった。

◆プロジェクトの目標達成状況（活動内容等を具体的に記入してください）

＜達成状況＞

チャレンジ奨励金のエントリーシートでは、大学と地域の架け橋プロジェクトの最終目標として　①こりんカフェを大学生と地域の方の交流の場として機能させること　②昨年度の課題である学生の参加人数増加　③プロジェクトの来年度以降の継続 の 3 点を主に掲げていた。

①こりんカフェを大学生と地域の方の交流の場として機能させること

こりんカフェを交流の場として機能させることについては、無事に達成することが出来たと評価したい。

昨年度から継続して参加をしてくださっている地域の方とは継続的な交流を行うことが出来た。こりんカフェの来場者の特徴として、一度こりんカフェに参加をしていただくとリピート率が高いことが挙げられる。地域の方の中には、昨年度からこりんカフェの存在を認識していて気になってはいたが足を運べなかったという方が複数名いらっしゃた。そして、地域イベントで私たちプロジェクト運営者との交流機会があり、こりんカフェに初めて参加をしたという方もいらっしゃったため、新規利用者獲得へのアプローチも適切におこなえていたと考えている。リピーター、新規参加者含め交流の輪を順調に広げることが出来たと思う。

大学生も昨年度はこりんカフェに参加をしなかったが、こりんカフェの活動が気になっていたという学生の参加を促すことが出来た。特に効果があったと感じたのは大学の授業内での宣伝である。

何の接点もなかった地域の方と学生が空間を共にして、交流をすることが出来る場所づくりをおこなうことができた。

② 昨年度の課題である学生の参加人数増加

学生の参加人数増加については、完全に達成出来たとは言い切れない。一度こりんカフェに足を運んでくれることはあっても、学生の新規参加者のこりんカフェリピート率は地域の方に比べて芳しくなかった。しかし、授業宣伝や SNS での宣伝活動によって、新たに足を運んでくれた学生の数は昨年度もより増加したため、数値としては達成することが出来たと評価したい。

③ プロジェクトの来年度以降の継続

プロジェクトの来年度以降の継続については、まだプロジェクト採択をしていただけるかが未定のため確定ではないが、こりんカフェの活動継続のための後継者が決定したため現状では達成することが出来たといえる。
昨年度から共にプロジェクトを行ってきて、今年度も積極的にプロジェクトに参加をしてくれていた 2 年生の後輩が中心となり、来年度のチャレンジ奨励金にエントリーをおこなってくれている。チャレンジ奨励金以外で年間を通して活動を支援していただける制度が大学に存在していないため、現状プロジェクトの継続のためにできることは 2025 年度のチャレンジ奨励金へのエントリーである。
来年も貝津町公民館を利用させていただくことが出来るよう、1 月 28 日に、2024 年度貝津町区長様、2025 年度の貝津町の新役員様方にご挨拶に伺った。来年度もこりんカフェ継続の意思があること、今年度のこりんカフェ開催にあたってのご協力の感謝をお伝えした。

自己評価による達成度：　100％

今年度は貝津町公民館だけでなく、新たに保見交流館でのこりんカフェ開催をすることができた。先輩方が作り上げてきたつながりの継続だけでなく、貝津町の枠組みを超えた新たなつながりを作ることができた。
プロジェクト採択時に目標としていたこりんカフェ実施予定回数は全て達成することが出来た。もともと予定をしていなかった地域団体との合同イベントも二回実施することが出来たため、エントリーシート提出時に予定していた以上に縁を広げることが出来たと思う。

◆改善点、やり残したこと

＜改善点＞
・運営者の人数不足
プロジェクトに運営メンバーとして参加している学生は 6 名だが、実際に毎回の活動に参加できる運営の人数は約 4 名だった。小さな子どもがこりんカフェに参加すると見守りのために最低学生が 1 名はつく必要がある、初めての参加者にこりんカフェの説明をおこなう、飲食物の提供など 4 名だけでは手が回らない場面が数多くあった。大変ありがたいことに、地域や学生の常連はこちらのことは気にしなくて大丈夫だよ～と言ってくださることもあったが、わざわざ時間を割いてこりんカフェに参加してくださっているため、会話の輪の中に入れない、手持ち無沙汰なっているという状況をできる限り少なくしたい。毎回の活動に参加出来る学生の運営人数が今よりも少なくとも 2 名増やした 6 名は必要だと思う。

・大学生の集客方法
授業宣伝をおこなってある程度の効果はあったものの、やはり実際に活動に足を運んでくれる学生は地域の方に比べると数少なかった。こりんカフェの活動を知っているがこりんカフェに参加したことない学生に話を聞いたところ、こりんカフェでの過ごし方は自由と書いてあるが、全てが自由だと参加したときの想像がつかず足を運びにくかったという意見をいただいた。
こりんカフェを新しいアイデアが生まれる自主性に富んだ場所にしたいという想いから、こりんカフェでの過ごし方は自由というスタンスは継続するとしても、何かわかりやすいイベントを企画して、初めて足を運ぶきっかけ作りも同時におこなうことが重要だと感じた。

・予算組みの段階での見通しが甘かったこと

私たちのプロジェクトは活動をしていく中で新たな繋がりが生まれて、イベント参加へのお誘いをいただく、一緒にコラボをしませんか？というお誘いをいただくことがあった。しかし、チャレンジ奨励金では予算を活動開始前にすべて決定してしまうため、予算の関係で規模の大きいことは実現することが出来ない、チャレンジすることができないことが活動中何度かあった。最低限、予算決定前にお世話になっている地域団体など各方面に連絡を取り、活動計画について早い時期に相談する機会を設けることが出来ていたら良かったと思う。

＜やり残したこと＞

・キャンパスツアーの開催

プロジェクト採択の審査段階で、地域の方向けにキャンパスツアーを実施するという宣言をしていた。これは、昨年度地域の方から近くに大学があるにも関わらず実際に足を踏み入れる機会があまりないという意見をいただいたため、実際に大学に通う学生がキャンパスツアーを実施したら需要があり参加者が集まるのではないかと考えたからだ。しかし、キャンパスツアーを実現するには学生の運営人数が足りないこと、多方面への許可取りが必要など事前の見通しが甘かった部分もあり、実際にはハードルが高く実現にはいたらなかった。

キャンパスツアーの実施は難しいとしても、大学内にあるスポーツミュージアムや学食は誰でも自由に利用できるため、もし来年度もチャレンジ奨励金でプロジェクトを採択していただくことが出来たら、可能な範囲で大学内に学生と地域の方が一緒に入れる企画を考えたいと思う。

・地域との合同イベントで学生の力を発揮しきれなかったこと。

地域団体との合同イベントを行うときに、事前打ち合わせで学生は何が準備出来るか問われた時に、主に学生の運営人数が少ないこと、予算に制約があることの 2 つの理由から、イベント開催時に十分な力を注ぐことが出来なかったと感じている。地域の方と大学生の合同でのイベントということで、本来であれば対等なバランス関係で準備や当日の労力をかけるべきだと感じるが、実際には相手方のイベントに微力ながら力添えをするという状況になってしまっていた。チャレンジ奨励金という制度の性質上、プロジェクトを採択していただくまでの間は外部の方と確定したお約束が出来ないため、1 年ごとのイベントが多い地域団体の方と合同でイベントを行うための準備をすること、事前に見通しを立てることはかなり難しいと感じた。

◆今回のプロジェクトを実施したことにより、どのような気付きを得たか

・大学生の力を必要としている人が多くいること。

活動を通して、大学生とつながる機会はあまりないというお話をされる方が多くいた。地域とのつながりを持ちたいという活動に賛同してくださる市役所の方、学校教育に取り組む方など、大学生自身が地域にアプローチしていくことによって多くのつながりを作ることができた。ボランティアに参加してほしい、こりんカフェとのコラボをしたい、大学でのキッチンカー出店など、大学生とつながる窓口があることで、個人では達成できないことも実現できる可能性を感じた。またこりんカフェ最終日には「より地域を巻き込んだ活動にしてほしい」という声もあった。「居場所づくり」のような大学生だからこそできる地域への働きかけが、地域コミュニティの活性化につながると感じた。

・問題意識を持って社会を変えようと行動している人達の存在。

このプロジェクトを初めてから、私たちは大学生と地域の方の交流の場を増やすという目的でプロジェクトを始動させたが、活動を進める中で違う側面から社会へアプローチしているたくさんの方々との出会いがあった。子育て、高齢者の孤立、食の安全、性教育など様々な分野で、社会を少しでも良くするために活動をおこなっている方々のお話を伺った。所属している学部の授業で、社会問題について学ぶ機会があり興味を持ったとしても、学外の方と直接話す機会や、実際に興味を持った分野の方たちと共に活動をおこなうことまで発展する学生は少ないと感じる。身近により良い社会と未来のために行動をしている人達の存在があること、そして大学生の力を発揮出来る場所がたくさんあることを活動を通して気づくことが出来た。この気付きを 1 人でも多くの大学生に実感してもらい、社会で活躍する学生の数が増えていくことが理想の姿だと思う。

◆今後チャレンジしていきたいこと

（例えば、成果の活用・利用について、次回のプロジェクト活動に向けての抱負、卒業してからの展望等、自由に記入してください）

今回このプロジェクトの立ち上げをおこなった 2 人は将来公務員を志望している。このプロジェクトで得られた学びは、地域に密着し、課題解決や行動を起こす公務員の仕事に生かされると考えている。このプロジェクトを通して、学生や地域のさまざまな立場や年代の方と関わる経験が出来た。出来るだけ多くの方にこりんカフェに足を運んでいただくために、こりんカフェという場で何が求められているのかニーズを把握する能力が養われたと感じている。

大学と地域の架け橋プロジェクトは 2023 年度に立ち上げられた。そして、来年度もこりんカフェの活動を継続しようと、活動を一緒におこなってきた後輩が現在仲間とともにプロジェクト採択に向けて動きはじめている。もし、来年度も大学と地域の架け橋プロジェクトがチャレンジ奨励金で採択していただけた場合、来年度で活動が 3 年目となる。過去 2 年の経験や実績から得られたことを、来年度以降の活動に生かしより良い地域交流の場としてこりんカフェが存続していくことを心から願っている。

◆実施結果（成果）
※必要に応じて写真・現物添付可。枠欄が足りなければ、追加してご記入ください。

6 月 10 日　貝津町区長さんとの打ち合わせ

昨年度とプロジェクト実施メンバーが総入れ替わりしたため、今年度のこりんカフェの実施について貝津町区長様と顔合わせ兼協議を行った。　昨年度は貝津公民館の利用料を無料にしていただいていたが、本来であれば貝津町民以外の外部利用は有料であること、今年度は昨年度に比べてこりんカフェ実施予定回数が増加していることを踏まえ、一回の利用で 200 円をお支払いすることになった。

打ち合わせ終了後、運営メンバーで MT を行った。今後のスケジュール確認、こりんカフェで必要になりそうな備品の確認、プロジェクト運営メンバーの役割分担など円滑にプロジェクトを進めるための話し合いを実施した。

6 月 16 日　鞍ヶ池　だんだんマルシェ見学

昨年度中京大学内でおこなわれた大学生と地域の方との意見交流会で知り合った市民団体の方が主催されているマルシェを学生２名が見学。学生のマルシェへの出店や地域の方への呼びかけなど力になれることがあったらできる限り手助けします！という心強いお言葉をいただいた。学生からやりたいことを積極的に発信すると手助けしてくださる方がたくさん存在していること、受け身の姿勢ではなく実際に声をあげなければ何も実現がしないことを改めて認識する日になった。

6 月 15 日　SNS アカウント始動

こりんカフェの活動をより多くの方に知ってもらうために SNS アカウントの運用を始めた。こりんカフェの活動予定日、活動報告を中心に SNS を更新。

6 月 19 日　17:00～19:00　豊田キャンパス 84A 教室（ワークショップ）

学内ワークショップの実施。もともと５月からプロジェクトを開始する予定だったが、予算執行開始時期が後ろ倒しになった関係で、６月に学内ワークショップ初開催となった。プロジェクトに参加するメンバーの対面での初顔合わせ日にもなった。開催日前に学内に学内ワークショップ開催予告のチラシを掲示、ALBO でのメール配信、X と Instagram で活動宣伝の発信を行った。

6 月 24 日　17:00～19:00　豊田キャンパス 84A 教室（ワークショップ）

２回目の学内ワークショップの実施。ボードゲームなどで学生同士の親睦を深めた。開催日

前に学内に開催予告のチラシを掲示、ALBO メールの配信、X と Instagram で活動宣伝の発信を行った。

6 月 30 日　10:00～16:00　貝津町公民館　参加者 22 名　今年度初こりんカフェ開催日

昨年度から足を運んでくださっていた地域の方が駆けつけてくださった。子どもたちは宿題をしたり、友達と一緒に来て遊んだり、新しい友達ができたり、活動目的である第 3 の居場所としてこりんカフェを利用してもらうことができた。今回回覧板を見てきてくださった方がいたため、回覧板を利用した告知の重要性を感じた。

今年度の貝津町区長様がお孫様を連れてこりんカフェに足を運んでくださった。実際に地域の役員という立場の方が私たちの活動に参加をしてくださることで、地域住民の方が安心して足を運んでくださることが出来ると思う。貝津町公民館という場所の提供だけでなく、実際に私たち学生のために時間を割いてこりんカフェに参加をしてくださった気持ちがとても嬉しかった。貝津町地域の方々ために少しでも素敵な場所を作りたいという気持ちがさらに強まった。

7 月 15 日　13:00～16:00　貝津町公民館　参加者 19 名　第 2 回こりんカフェ開催日

多くの子どもたちが学校終わりに遊びに来てくれた。公民館のホール全体を使って、学生と地域の子供たちが時間いっぱい遊びつくした。高学年の子が小さな子供たちに紙飛行機を作ってあげたり、逆に大学生が子供たちに折り紙を教えてもらったり、みんなで楽しむことができた。

昨年度からお世話になっている地域の農家の方がプチトマトをご厚意で持ってきてくださった。学生、地域の方共に素敵なお土産にとても喜んだ様子が見られた。私たちの活動は、学生だけでなく、活動に関心を持ったり、賛同をしてくださったりする地域住民の方も一緒に作り上げているものだという実感を得ることが出来た。

7 月 22 日　15:00～19:00　貝津町公民館　参加者 16 名　第 3 回こりんカフェ開催日

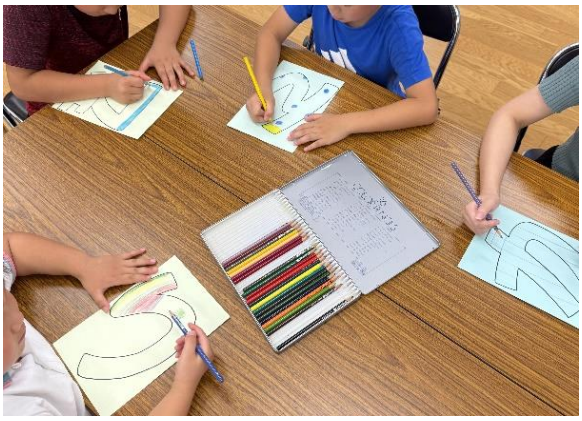
地域の方とこりんカフェで何か合同でイベントを行えることはないかとお話をした。楽器演奏や貝津町について知る機会を設ける、大学に地域の方がキッチンカーを出すことが出来ないかなど多くのアイデアを出し合った。

農家の方が前回に引き続き、プチトマト、ピーマン、なすなどの夏野菜を持ってきてくださった。1 人で農家を営む上での悩みや、こりんカフェと共同で取り組めることはないかなど深く話し合うことができた。農家が減少傾向にあることは知っていたが、実際にお話しを聞くことで、後継ぎ問題など様々な不安を抱えている人が身近にいることを強く実感した。個人的には、実際に農地にお邪魔したり、農業体験をしたりなど、子供たちや大学生が少しでも農業に興味を持つきっかけづくりをしたいと感じた。

昨年度からお世話になっている宮田ゼミの方々が足を運んでくださった。今年度も地域の方

にアプローチをしていくという点で協働していけることがあれば一緒に活動を行っていこうという話にまとまった。また、宮田先生から草笛のやり方を教えてもらい、普段はおこなうことがない遊びをみんなで体験することができた。

子どもや大人、年齢や立場が違う人達が夢中になって同じ時間に同じ活動をおこない交流をする機会はとても少ないと感じる。多世代交流が出来るようにするためにはどのような活動を行うのが良いのだろうと考えさせられる機会だった。



8月3日　貝津町盆踊り大会

貝津町区長様からぜひ大学生にも地域の盆踊り大会に参加してもらいたいというお言葉を頂いたため、普段こりんカフェに参加してくれている学生含め、7名の学生が盆踊り大会に参加した。会場では貝津町の老人会や子供会の代表の方々にご挨拶することが出来て、連絡先の交換、情報共有やこりんカフェの宣伝をさせていただいた。

いつもこりんカフェに足を運んでくださる地域の方々とお祭りという特別な時間を一緒に過ごしたことで、今までは地域の中にある大学の学生という認識だったが、貝津町地域の一員という認識が生まれた瞬間だった。こりんカフェでよく遊ぶ子どもたちが学生に駆け寄ってきてくれる、地域の大人の方も学生に抽選券を特別にお渡ししてくださるなど私たち学生が地域に受けいれられているのを実感し、温かい気持ちになった。

8月6日　13:00～17:00　貝津町公民館　参加者18名　第4回こりんカフェ開催日

前回こりんカフェを実施していた時にお話をした地域の方が、貝津町の歴史を知ることが出来る展示資料を持ってきてくださった。実際に触ることが出来る昔の農具などもあり、子供たちや学生などが興味津々に眺めていた。昔の航空写真と今の航空写真を見比べて、大学がない！自分の家がない！と大盛り上がりだった。

子どもたちと夏らしい遊びをしたかったため、水鉄砲とシャボン玉を用意した。回覧板で事前に外遊びをする告知をしていたため、子どもたちからはとても楽しみにしていたと言ってもらえた。子どもたちがこりんカフェに行きたいと思うような企画性のあるイベントや活動も重要だと感じた。

9月12日　中間報告書の提出

約3ヶ月の活動期間を通して見えてきた課題を洗い出し、改善のために何を行うべきかプロジェクト運営メンバーでMTをおこなった。MTで議題に上がったことを中心に中間報告書を作成。そして、完成した中間報告書を踏まえて、今後のプロジェクトの活動計画のブラッシュアップをおこなった。

〇中間時点での課題点

・学生参加が少ないこと

・子供を預けて帰ってしまう親御さんが多いこと

9月23日　13:00～16：00　貝津町公民館　参加者19名　第5回こりんカフェ

祝日ということもあり、普段こりんカフェに足を運んでくれている子供たちの保護者の方ともお話しすることができた。普段Wi-Fiを準備しているものの、利用する方が少なく主に大学生が利用するだけで需要が少ないように感じていたが、今回は子どもたちが持ってきたゲーム機を接続し、Wi-Fiを活用することができた。貝津町公民館にはテレビがあるため、人気のゲ

ームをみんなで遊ぶゲーム大会などの機会があっても良いと感じた。子どもたちがゲームで遊んだり、折り紙で遊んだりしている間、親御さんがゆっくりお話しできる時間を作ることができた。

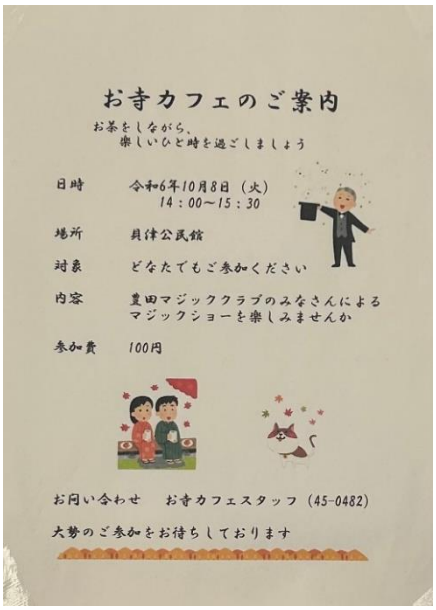
9 月 24 日　地域の農家さんと大学訪問

こりんカフェで知り合った農家の方から、大学にキッチンカーを出店したいというお話を伺っていた。学生支援課の担当の方に相談したところ、農家の方と一緒に大学内で担当の方とお話をする機会を設けていただいた。豊田キャンパスではキッチンカーが時々出店していたが、学食のリューアルオープンに伴いキッチンカー出店が打ち切りになるということだった。そとため、すぐには実現が難しいという結果になってしまったが、大学で開催されるイベントや学祭でキッチンカー出店がおこなわれることがあるため、キッチンカー登録につなげることが出来た。地域の方の実現したいことの力にほんの少しでもなれたかもしれないと思い、喜びを感じた。

10 月 8 日　14:00-15:00　お寺カフェ　マジックショー参加

お寺カフェは地域の団体で、貝津町公民館で地域の方同士の交流をおこなっている。昨年度はお寺カフェとこりんカフェが合同でイベントを開催したこともある。お寺カフェには貝津町公民館近くの高齢者の方がたくさん参加されているということもあり、交友関係を広げるきっかけとしてお寺カフェ主催のマジックショーイベントに参加をさせていただいた。マジックシ

ョーでは実際に学生をステージ上にあげていただいたことをきっかけに、その後のトークタイムで話が広がり、今まで交流が無かった地域の方と面識を持つことができるきっかけになった。



10 月 14 日　10：00～16：00　貝津町公民館　参加者 6 名　第 6 回こりんカフェ

午前中（10：00～12：00）は、こりんカフェに来てくださっている農家の方が開催してくださった枝豆収穫祭に参加した。フードドライブや子どもの学習支援を行っている方や中学生も参加しており、枝豆の仕分け作業中にお話を伺い、新たな知見を得ることができた。枝豆の栽培方法や栽培環境について初めて知ることができ、普段農業に触れることがないため良い経験になった。農家のお母様が参加者にお茶や菓子などを提供してくださり、とても丁寧にもてなしてくださった。豊田キャンパス付近は農家の方や田畑を所持している方が多いため、学生が実際に農業の経験してみることは地域の方との交流を深める上で重要な要素であるかもしれないと感じた。多世代交流が出来た枝豆収穫祭はとても貴重な経験だった。

午後（13：00～16：00）は、貝津町公民館でこりんカフェを開催した。次回のこりんカフェでハロウィンイベントを開催するため、おばけやかぼちゃなどハロウィンの飾り物を作成した。飾り物を作った後は、新聞を使ってカゴを作る子や、紙飛行機を作る子など、それぞれ自由な過ごし方で楽しんだ。夏は暑く、なかなかできなかったかくれんぼや鬼ごっこなど子どもたち念願の外遊びもすることができた。

10 月 29 日　13：00～16：00　貝津町公民館　参加者 15 名　第 7 回こりんカフェ

ハロウィンイベントの開催。ハロウィンのプレゼント用にお菓子の詰め合わせを用意した。カチューシャで仮装をした学生にトリックオアトリート！と声をかけてもらいお菓子をプレゼントした。普段来てくれている子どもたちが学校の友人を呼んできてくれたため、イベント性があると呼びやすく、多くの人が参加しやすいように感じた。宿題を子どもたちで教え合ったり、分からないところを大学生に聞いてくれたりした。また老人会の方が来てくださり、クリスマスイベントを合同で行わないかというお誘いをいただいた。

こりんカフェ終了後、来月の保見交流館での開催を告知するため、保見交流館の入り口にチラシの掲示をお願いし、10 枚のフリーペーパーを設置させていただいた。

11 月 8 日　15：30～18：30　保見交流館　参加者 17 名　第 8 回こりんカフェ

保見交流館の一階には図書館や勉強スペースがあり、予想通り新しいつながりを作るきっかけになった。保見交流館にチラシを掲示することで、私たちが想像していた以上にチラシをきっかけに足を運んできてくださるという反響があった。

こりんカフェ開催当日に保見交流館内にいらっしゃった方にご挨拶をし、こりんカフェの簡単な宣伝をおこなわせていただいたところ立ち寄ってくださる方もいた。習い事のお迎え待ちで立ち寄ってくださった方は、「このような活動があるならぜひまた来たい」と言ってくださった。中学生の女の子に大学生がいつでも勉強教えるからね！と声をかけると嬉しそうな反応をしてくれたことがとても印象に残っている。小中高生にとって、自分より少し年齢が上のお兄さんお姉さんと関わる機会は近年減少しているが、子ども達の成長にとって歳の近い大人の存在はとても貴重で重要な要素だと感じる。

この日は FFC 豊田みよし、大学教授、地域の方、大学生、大学職員など、様々な立場の方が一同に集まる時間があった。それぞれ違う立場や視点からの幅広い意見を聞くことができる機会だった。

11 月 8 日、12 日、18 日　授業宣伝

学生の参加人数が少ないという課題を解決するため、地域コミュニティやボランティア論など講義内容がこりんカフェの活動目的と共通している講義でこりんカフェの活動を宣伝させていただくことが出来るか教授に許可を頂き、合計 4 つの講義で宣伝をさせていただく機会をいただいた。授業宣伝を通して、Instagram のフォロワー数が増加した。また活動に興味を持ってくれた学生から SNS を通して何件かのご連絡をいただいた。Instagram の閲覧数も増加したため、普段の広報活動だけではなく自分たちが行っている活動についての情報発信の場や機会は出来るだけ増やしていくことが重要だと実感した。

11 月 11 日　老人会打ち合わせ（12 月 24 日クリスマスイベントの詳細）

老人会とこりんカフェの合同でクリスマス会を開催しませんか？とお誘いをいただき、打ち合わせを行った。老人会のクリスマス会の前日にこりんカフェの開催を予定していたため、こりんカフェ運営メンバーで公民館の飾り付けや椅子、机などを前日に準備することにした。飲み物の提供も行いたかったが、予算が足りずに断念することになった。

11 月 19 日　13：00～16：00　貝津町公民館　参加者 16 名　第 9 回こりんカフェ

授業宣伝を聞いてこりんカフェに足を運んでくれた学生がいた。前回の保見交流館での出会いから、バナナや柿、ラーメンなどを地域の方に提供していただいた。豊田にはフードバンクやフードドライブの活動を行っている方が多く、私たちの活動にも興味を持っていただけた。中京大生はひとり暮らしの学生が多い、来場者の方に渡してこりんカフェはすごいと思ってもらってほしいなどといった理由から支援をしてくださる方がいらっしゃり、気にかけてくださることがとても嬉しかった。

11 月 26 日　子ども会打ち合わせ（12/8 クリスマスイベントの詳細）

子ども会の役員の方と 12/8 に行われる子ども会クリスマスイベントの打ち合わせを貝津町公民館でおこなった。大学と地域の架け橋プロジェクトメンバーでレクリエーションの実施、お菓子の提供をさせていただくことが決定した。打ち合わせ終了後、学生で子ども会当日に向けて実施するレクリエーションの計画を作成した。

12 月 8 日　 9：00～11：00　貝津町公民館　子ども会クリスマスイベント

15：00～18：00　保見交流館　参加者 20 名　第 10 回こりんカフェ

午前中（9：00～11：00）は、子ども会のクリスマスイベントに運営メンバー４人で参加した。レクリエーションの時間をいただき、チーム対抗新聞タワー作りを行った。学年も性別もバラバラなチームでの挑戦だったが、2m を超える新聞タワーを作り上げたチームもあって、子どもたちの能力に驚かされた。こんなに大勢の子ども達と関わる経験は児童系の部活やサークル、ボランティアなどに参加をしていないと中々ない事だと思う。また、このように地域の子どもがたくさんいるにも関わらず、こりんカフェに来てくれる子供たちは常連が多く、より多くの人がこりんカフェを活用できるようにするために周知活動をどうすべきか考えさせられた。

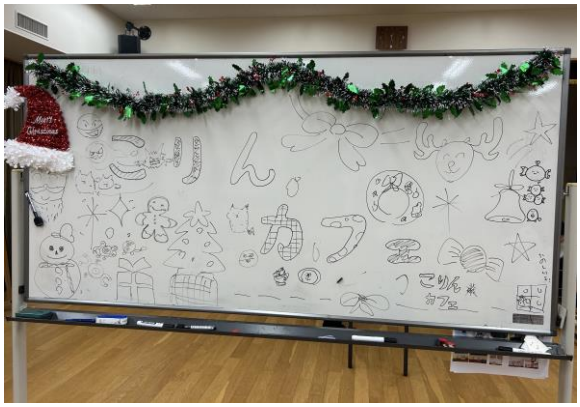
午後（14：00～17：30）は保見交流館でこりんカフェを開催した。交流館の入り口に置いていたフリーペーパーが減っており、貝津町公民館から離れた場所でもこりんカフェの活動に興味を持ってくださる方の存在、交流の場に需要があるように感じた。

前回同様、保見交流館の一階にいた方たちが興味も持ってくださり、親子でこりんカフェを利用していただいた。親御さんから「子どもたちは大学生のお兄さんやお姉さんと遊ぶ機会がないので、一緒に遊んでもらえてうれしい」という声をいただき、近所のお兄さんやお姉さんと関わる機会が減っている今、この活動が子どもたちに良い影響を与えることができるように感じた。

12 月 23 日　14：00～17：30　貝津町公民館　参加者 22 名　第 11 回こりんカフェ

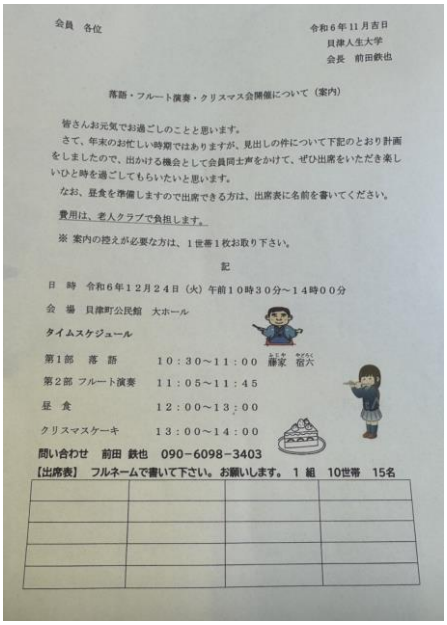
松ぼっくりツリーを作るクリスマスイベントを開催した。小学校が終業式で午前中に下校だったということもあり、普段に比べて多くの子どもたちが参加をしてくれた。どんぐりやビーズ、リボンなどを使って個性あふれる松ぼっくりツリーを作ることができた。工作をするイベントは初めてだったが、予測できない人数に対応するのは少し難しさを感じた。この日の学生参加人数は 5 人だったが、工作やイベントを開催する時はもう少し学生の人手があると運営がしやすいと感じた。子どもたちの見守りで多くの人員が割かれてしまい、大人の方と会話するなど、十分な交流が取れない時間があった。

次の日の老人会のクリスマス会でも部屋の装飾が欲しいというお話だったため、子どもたちと折り紙で公民館中を飾り付けた。サンタさんやプレゼントの折り方を子どもたちに教えてもらいながら、手作り感あふれるクリスマスの飾りつけをすることができた。



12 月 24 日　老人会のクリスマス会　落語とフルート演奏

前日に開催したこりんカフェで子どもたちと学生が作成した、松ぼっくりツリーと折り紙の部屋装飾を大変喜んでいただけた。クリスマス会終了後、公民館内に飾ってあった松ぼっくりツリーや部屋の装飾を家に持って帰っても良い？とイベント参加者の方々が私たちにたずねてくださり、部屋に飾るね！と伝えてくださったのがとても嬉しかった。たくさんあった松ぼっくりツリーを全て持ち帰っていただくことが出来て、頑張って準備したかいがあったと感じた。



会員　各位

令和６年11月吉日
貝津人生大学
会長　前田鉄也

落語・フルート演奏・クリスマス会開催について（案内）

皆さんお元気でお過ごしのことと思います。
さて、年末のお忙しい時期ではありますが、見出しの件について下記のとおり計画をしましたので、出かける機会として会員同士声をかけて、ぜひ出席をいただき楽しいひと時を過ごしてもらいたいと思います。
なお、昼食を準備しますので出席できる方は、出席表に名前を書いてください。
費用は、老人クラブで負担します。
※ 案内の控えが必要な方は、１世帯１枚お取り下さい。

記

日　時　令和６年１２月２４日（火）午前１０時３０分～１４時００分
会　場　貝津町公民館　大ホール
タイムスケジュール
第１部　落　語　１０：３０～１１：００　藤家 宿六（ふじや やどろく）
第２部　フルート演奏　１１：０５～１１：４５
昼　食　１２：００～１３：００
クリスマスケーキ　１３：００～１４：００
問い合わせ　前田 鉄也　090-6098-3403
【出席表】　フルネームで書いて下さい。お願いします。　１ 組　10世帯　15名

1 月 22 日　15：00～18：00　貝津町公民館　参加者 18 名 第 12 回こりんカフェ

公民館の別室で開かれている絵画教室や習字教室に通う子どもやその親御さんが立ち寄ってくださった。こりんカフェの開催日が教室の開催日と被ることが多く、看板を見て気になっていたというお話を伺った。今まではそこまで曜日を意識してこりんカフェ開催日を決めたことはなかったが、公民館の利用者が多い日に合わせて開催日を決定することでより活動を知ってもらえると感じた。今日が最終日と伝えると、「子どもたちが寂しくなってしまう」「是非活動を継続してほしい」という声をいただけた。こりんカフェが気楽に集まることができる居場所になっているのか不安に思う日もあったが、様々な方から続けてほしいと言っていただくことができて、私たちの活動は意味のあるものだったと実感することが出来て安心した。

1 月 25 日　9:30-12:00　中京大学 豊田キャンパス

27 日 12:00-15:00　中京大学 豊田キャンパス

来年度のプロジェクト活動について、来年度の活動を中心となって引き継いでくれる予定の後輩と打ち合わせを実施。チャレンジ奨励金採択に向けての資料づくりや活動についての伝達をおこなった。

1 月 28 日　11:30-12:00 貝津町公民館

貝津町の今年度の区長様、来年度の貝津町新役員様方にご挨拶に伺った。今年度の中心運営メンバー２名と来年度の中心運営メンバー２名の４名で参加。

今年度のプロジェクトへのご協力の感謝と、来年度も大学にチャレンジ奨励金制度でプロジェクトを採択していただくことが出来た場合活動継続の意思があることをお伝えした。役員様方からは快く来年度の活動実施許可をいただくことが出来た。